



## 第2回会合における事業者からの主な発言

---

2021年4月22日  
事 務 局

IDFAが今後同意が必須となることに伴い、IDFV（ID for Vendors）の利用が増えてくるとしている。IDFVは今のところ利用者のコントロールができない状態だと思うが、それについて今後どのような対応を行っていくかという計画はあるか。【太田構成員】

## Apple Inc.

- ID for Vendorsというのは、同一デベロッパのエコシステム内におけるトラッキングを許容するものであり、ファーストパーティーアドとなるので、App Tracking Transparency（ATT）のプロンプトでブロックされることはない。
- ID for Vendorsを使ってサードパーティーのデータを使ったり、編集したいような場合、プロンプトによってコントロールされることになる。このプロンプトはテクノロジーのテクニカルなコンポーネントと、ポリシーに関わるコンポーネントがある。テクニカルコンポーネントに関しては、IDFAのAPIをアプリが呼び出すには、ユーザーの同意が必要になる。ポリシーコンポーネントに関しては、アプリに対して識別子を使ったトラッキングができないということ、フィンガープリンティングもできないということ、アプリに対してポリシーコンポーネントが指示するような内容になっている。

データ最小化はとても重要な考え方で、アップルがとても大きな努力をしていることをユーザーとして理解している。しかし、利用者にとってとても分かりづらく、プラットフォームとしても実施するのが難しいものだと思っている。その考えをプロモートするために、例えばそのサービスが完璧にできて、同時にデータを最小化するというのはどのように評価しているか。考え方はAppleが単独でデザインしているものか、アプリケーションプロバイダー、サードパーティと一緒に考えているものか。【高橋構成員】

### Apple Inc.

- データ最小化に関しては、プロダクトのデザインフェーズから取り組んでいる。法律の専門家やプライバシーエンジニアやディベロップメントのチームが、そのデータのフローについて議論をする際に、どれだけそのデータ収集を最小化することができるのかということはこの段階から議論する。
- そのうちの一つにデバイス上での処理というものがある。iOSのデバイスをお使いの方であれば御理解いただけると思うが、そのデバイス上に載っている写真というのは、かなり整理整頓された形になっている。顔認証に関して、デバイス上にテクノロジーが載っているため、これらの顔認証をしたときの情報が例えばサーバーに上がってくるというようなことはなく、純粹にそのデバイスの能力を使って、デバイス上で完結するような形になっている。
- もう一つがマップの話で、Appleのマップに関しては各セッションでユニークな識別子を生成している。それを使ってサーバーと通信を行うことになるので、その方の位置情報をこちらが収集しなければならない状況にはない。
- データの最小化に関わるこれら2つの事例のように、このような形でデバイスのパワーや知能を最大限活用することにより、収集すべきデータの量を最小化するようにしており、アプリでも同じことができる。
- これら技術自体はAppleで開発しており、グローバルのデベロッパカンファレンスを行う際に、プライバシーエンジニアによるセッションを設けている。このセッションに参加いただくことにより、デベロッパは我々が開発した関連する技術について学んでいただくことができる。

あるところでヤフー株式会社のプライバシーポリシーにたどり着けるかという実験をしたところ、非常にたどり着きにくい。20人ほどでやったが、2、3分かかるといって状態、実はどこにあるのかが分からないというところ。中身のコンテンツは非常に充実しているが、ユーザーオリエンテッドにあまりなっていないのではないかと危惧している。

具体的に普通プライバシーポリシーのある場所というのは一番下か、ヤフーの場合は一番下までスクロールというのはほとんど現実的ではないので、それ以外のところということになるが、一番右のペインの一番下。しかもここにプライバシーとあるが、期待していたプライバシーポリシーではなく、プライバシーセンターが出てくるといった形。その後、コントロールであったりとか、そういったところを見に行く場合、意外と深い。一生懸命頑張っているが、気がついたら何となくダークパターン的なものに陥ってしまっているような気がしている。こういった状態はあまりよろしくないということを前提にして、ユーザーのエクスペリエンステスト、こういったことをしているのかということと、もししているのであれば、そういったところはどういうふうに取り扱って反映されているのか。【寺田構成員】

## ヤフー株式会社

- 我々も、どこからどういうふうリンクさせるのかというのは非常に悩ましく考えていたところで、プライバシーセンターを今のところは分かりやすいだろうということで、プライバシーのところからは行けるようにさせていただいている。これについて、プライバシーポリシーとセンターをユーザーさんが、プライバシーの取扱いについて実際に何かお調べになりたいと思ったとき、我々として、まずセンターから、というのが、それらの方が何しろ分かりやすく説明していたつもりだったので、そういうところもあって、そのような今のところの構成になっているところ。
- いただいた御意見等を踏まえ、また改めて、ということが、在り方がより望ましいのかということについて検討させていただきたいと思う。
- ユーザーのテストについて、当然やっていて、また、今四半期というか、半期に大規模なものをやろうとしている。いただいた御意見等も踏まえながら、テストの具体的な設計をさせていただいて、お客様の意見をしっかり入れながら改善していきたいと思っている。

非常にいい取組をされているという印象はあったが、例えばそのユーザーの便益と影響のバランスを取ったところを、CDO・DD体制のところでも説明があったが、影響が過小評価されがちになり得ると思うが、そういったところをどのように担保しているのか。恐らくアドバイザリーボードであったりとか、PIAといったところだと思うが。

また、ユーザー側から言うと、その影響が具体的に分からないと思うが、分かるようにするような工夫をしているか。【古谷構成員】

### ヤフー株式会社

- ユーザーの特に影響について、過小評価はビジネス側がハンドリングしていると当然起き得ると思っている。よって、PIAを実施したり、アドバイザリーボードの先生方に御意見をいただいたり、DPOが個々の取組一つ一つに入って行って、消費者の代表として実は会社の中で存在しており、ずけずけ言うと、相当嫌われていると思うが、そういうような形で、当然過小評価してお客様から嫌われてしまっは我々はずいなので、このところはDPOの責任だと思っているが、しっかりやっていきたいと思っている。
- 影響が分かるかどうかというところはなかなか難しく、どういうコミュニケーションをすればいいのかというのが、まだ模索の段階だというのが正直なところかと思う。隠しておいて、後で分かって怒られるというか、批判されるというか、お客様の期待を裏切るというのが一番は我々の怖いことでもあるので、これはしっかり、私たちの中でどのようなことを情報開示していけばいいのかということを実際に考えて、取組を進めてまいりたいと思っている。